事業名　飯村隆彦　ビデオアート、フィルム、パフォーマンス作品のデジタル化と修復事業

団体名　特定非営利活動法人ビデオアートセンター東京

・概要（含む課題）What＆Why

実験映画、ビデオアート、メディアアート分野の草分け的存在である飯村隆彦（1937年−2022年）のフィルム作品、ビデオテープ作品のデジタル化及びアーカイヴ作業を行います。ユネスコが警鐘を鳴らしているように、磁気カセットテープの磁性体の劣化と再生ヘッドの生産停止により、今後再生が不可能になることが危惧されており、速やかなダビングとデジタル化が急がれます。本事業は飯村隆彦が残した８mmフィルム作品とカセットテープをデジタル・データに変換し、リスト化を行った上で必要なものは保存修復を施し、その芸術的功績を次世代に残し、また国内のメディアアートの貴重な資料としてアーカイヴ化を試みるものです。

切断したHi8テープ修復の様子

・体制／手法（解決方法）How

ビデオアートセンター東京は前年度にアーカイヴ化を目指したUマチック、ベータカムのカセットテープのデジタル化に引き続き、飯村隆彦のスタジオに収蔵されているテープ作品約550本(VHS形式90本, VHS-c形式66本、Hi8形式88本、miniDV形式220本)をデジタル変換して、動画ファイルとして取り込みました。フィルム作品について貴重なものを優先的に選定し、テレシネと光学取り込みによってデジタル映像のマスターを作成しました。方法としてテープやフィルムの切断、カビやフィルム送りの欠損など物理的なダメージを修復し、再生・上映を可能にした上で、複数のハードディスクに複数の動画形式に変換した上で保管しました。リストを作成した上で、将来的な展示や再現展に役立つ指示書としてアーカイヴしました。オンラインと冊子などを通じてアーカイヴの一般的に閲覧可能な状態を作ります。

・成果（公開・成果物について）

上記の手法によって、飯村が1980年代より日常的に撮り続けてきたビデオカセットの中から、ニューヨークでのナムジュン・パイクやオノ・ヨーコ、ジョン・ケージ、ジョナス・メカスらのアーティストとの交友録や、日本での同時代のメディア芸術家であった松本俊夫や山口勝弘らとの座談会の様子、そうした活動を通じて紡ぎ出されていった作品やプロジェクト、展覧会の様子をうかがい知る資料的価値の高い映像が発見されました。これらの資料のリストをオンラインにて一般公開し、今後の展覧会や研究に役立てたいと考えます。

・成果（社会・産業に向けての意義、見込まれる社会的利用等）

[展覧会での公開予定]

Community of Images: Japanese Moving Image Artists in the US, 1960s-1970s展（アメリカ合衆国・フィラデルフィア、フィラデルフィア日米協会、コラボラティヴ・カタロギング・ジャパン主催、令和6年6月14日～8月9

日）に飯村隆彦関連作品10作品、カルメ文化センター、スペイン、バレンシア（令和7年）2作品を提供・公開する予定。

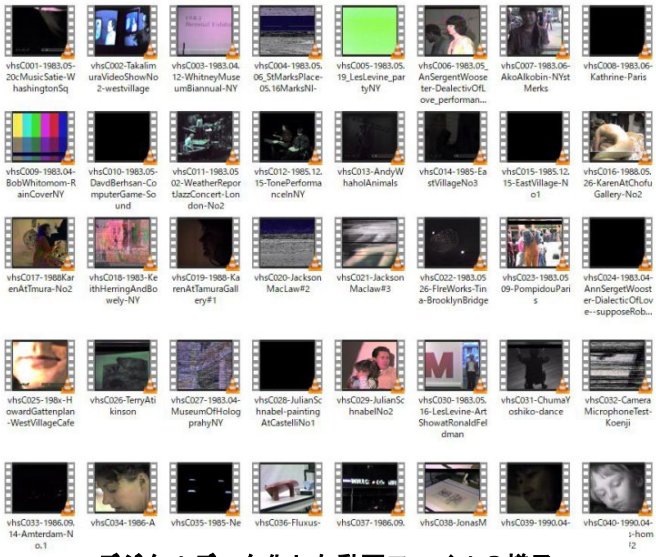
［オンラインでの公開］

飯村隆彦アーカイブサイト（ビデオアートセンター東京）随時更新

https://vctokyo.wixsite.com/info/iimura-archive

・成果（課題）

今回対象としたVHSやHi8、miniDV形式の他、いくつか残された8㎜フィルムと16㎜のフィルム、また飯村が撮影した写真フィルムや紙焼きの記録写真、作品に関する手記やスケッチなどのデジタル化と整理が必要だと考えられます。今後はこれらの作業を行っていきたいと思います。



デジタルデータ化した動画ファイルの様子

・成果（本年度にこだわらない事業の最終ゴール）

飯村は国内のみならず海外での活動が多かったため、海外の映画祭・美術館が作品を収蔵しているケースや、海外のアーティストとの共同制作した事例がみられました。飯村作品と彼のメディア芸術活動の全容を把握する目的において、そのような海外文化機関やアーティストの管理団体と連携をとり、それぞれのアーカイヴの間を補完し合うような連携が必要だと考えます。またそのような横断的なメディア芸術の研究者の育成を行い、将来的に持続可能なアーカイヴと文化系譜の体制を整えていきたいと考えます。